

Q2 継続記録法（帳簿棚卸）はどのように行えばよいでしょうか。

A2 入庫数、出庫数、在庫数を継続記録できる帳簿（商品有高帳などと呼ぶことが多い）を用意する必要があります。さらに必要に応じて、発注残や受注残の情報を追加することが考えられます。

解説

・最も基本となる商品有高帳の形式を示すと以下の通りです（移動平均法を前提）。

年月日	入庫			出庫			残高			備考
	数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
20XX/4/1							100	120	12,000	月初残高
20XX/4/2	300	115	34,500				400	116	46,500	入庫No.xxx
20XX/4/3				250	116	29,063	150	116	17,438	出庫No.yyy

・入庫処理・出庫処理は、①現物の動きと同時に、②正確に、③モレなく、行うことがポイントになります。

・実務上は、上記の基本形式に加えて、発注残や受注残の情報を追加することで、無駄な在庫や欠品を生じさせない在庫管理を目指すことになります。

・もっとも、全ての在庫に対して、一律的に厳格な在庫管理を行うことは効率的ではありません。例えば、重要性の乏しい在庫や貯蔵品などについては、継続記録による受払管理を行わずに、実地棚卸のみを実施する方法が考えられます。

・また、継続記録法（帳簿棚卸）を実施している場合であっても、定期的に実地棚卸を行うことは必須である点に、留意する必要があります。